

熊の出没と森林保全

令和8年6月16日

森田晃司

熊の出没が続いています。様々な要因が重なり合っているようですが、基本的には地方の人口減少が加速化し、森林の管理が行き届かない点にあるようです。

森林が荒廃し、里山が放置され、土砂崩れや山火事、猪鹿による農産物被害、そして熊の出没などが発生しています。

林野庁の発表によれば、2023年の木材自給率は43%、ほとんどの分類の木材は関税率ゼロです。

自由貿易を礼賛し、関税を下げるのが先進国の証と錯覚させられて、外材に頼り、森林の保全を怠ってきました。

地方経済の維持発展、働き口の確保、国土の保全、環境の保護などなど、本来、様々な機能を持つ森林の放置・荒廃は自殺行為ではないでしょうか。

醜い資源戦争が続発していますが、他国の資源を奪おうとするところに端を発しています。

他国と資源・産物をやり取りする自由貿易ではなくて、できる限り他国に頼らず、高い関税をかけるのどしてでも(環境保全に補助金を支払うなどをしてでも)、最大限自国の資源でやりくりする工夫をするのが、先進国の責務ではないでしょうか。

はびこって処理に困っている竹は、かつては様々な用途に使用されていました。

端材・廃材などを集めて圧縮すれば木材ペレットとして燃料にも使えます(ただし、煙突が必要となります)、

プラスチックなどに置き換えられた様々な用途を、再度、木材に戻す工夫もできるかもしれません。

米国に85兆円も進呈したり、ウクライナに3兆6千億円も支援したりする余裕を国内投資に振り向ければ、出来ることは沢山ありそうです。

木材自給率43%、食糧自給率38%、太陽光、風力発電で自然破壊を進めているエネルギーの自給率は12%。

揃って、自給率を急激に低下させ、森林の荒廃と地方の疲弊に拍車をかけてきました。

そろそろ、国の在り方を根本的に見直してみる時期かもしれません。

2. 森林の荒廃の影響と対策

①. 荒廃の影響

自然災害（生態系への影響、出水、山火事など）

保水能力の低下

里山崩壊による農産物被害、人的被害。

過疎地拡大による安全保障の弱体化。

その他

②. 森林荒廃の原因

安い外材の流入（自由貿易、伐採後の搬出コスト）

植林による多様性の喪失

高齢化と人手不足

無責任開発（太陽光パネル、風力発電）

その他

③. 森林利用の拡大、再生

環境価値の見直し、国策の見直し（災害防止、景観、安全保障）

防火機能付き木造建築の拡大

燃料（木材ペレットなど、北欧の利用例）

日用品の木材回帰の促進策

その他

以上